

# 湿地環境の維持を

## 鳴門市整備事業で意見

徳島県の農業農村整備事業について学識経験者らが環境保全の観点から意見を述べる「県田園環境検討委員会」（委員長・角野康郎神戸大学教授）

が二十六日、県庁であった。新年度以降に予定している七事業に対する環境保全策や、過去の事業で実施された保全策のモニタリング結果などについて意見を交わした。委員七人が出席。会に

先立ち、新年度に着工される事業の一つ、鳴門市大津町で排水路と農道を整備する経営体育成基盤事業の現場を視察した。

同地区の水路には国のレッドデータブックで絶滅危惧（きぐ）Ⅰ類に分類されている淡水魚カワバタモロコ（コイ科）の生息が確認されている。委員からは「他の地区ではどんどん減っている普通種もごく当たり前に残

っている。この良好な湿地環境の維持に努めるべきだ」などの意見が出された。

過去の事業で県が実施した環境対策のモニタリング調査結果は、委員からの要望に応じて初めて提示。委員からは調査の継続を求める声のほか、「カエルなどに配慮し、水路に設置したスロープが実際に使われているかどうかの調査も必要だ」

などの指摘もあった。